

【表2】収支の状況（一般会計）

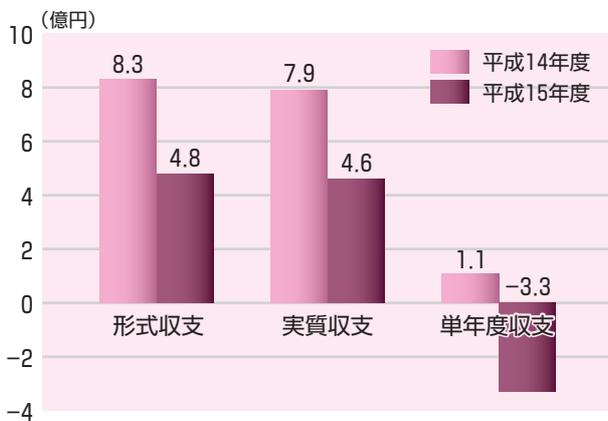
区 分	平成14年度	平成15年度
歳入歳出差引額 （形式収支）A	8億2,691万円	4億7,501万円
翌年度へ繰り 越すべき財源B	3,666万円	1,036万円
実質収支額C	7億9,025万円	4億6,465万円
単年度収支額D	1億 531万円	△ 3億2,560万円

◎収支

歳入と歳出の差額を決算収支といいますが、この収支バランスの良否を判断するには、単年度だけではなく、前年度や翌年度との関係を見る必要があります。

【表2】と【グラフ2】を見ると、一般会計では、4億7千501万円の赤字（形式収支といいますが）となっていますが、この中には15年度から16年度へ繰り越した事業の財源として1千36万円が含まれています。これを差し引いた額は、4億6千465万円となり、赤字額が少なくなります。これを実質収支といい、通常はこれで収支の状況を判断します。

【グラフ2】収支状況



次に、前年度との関係では、15年度の収入には14年度からの繰越金が含まれていますので、それを除いて計算した収支（15年度の実質収支から14年度の実質収支を差し引いたものを15年度の単年度収支といえます）を見てみると、3億2千560万円の赤字になります。

つまり、15年度は、前後の年度と切り離して単年度だけの収支でみると、赤字だったこととなります。

※各種決算収支式

- 形式収支＝歳入－歳出
- 実質収支＝形式収支－翌年度へ繰り越すべき財源
- 単年度収支＝実質収支－前年度実質収支

歳入の内容

歳入の決算内容を見てみましょう（【表3】・【グラフ3】参照）。

経常的に収入できる使いみちが自由なお金（いわゆる経常一般財源）の代表的なものである市税と地方交付税の合計が収入の約42%を占めており、とても大切な財源となっています。市は、この財源をもとに補助金や市債などを活用して事業を行っています。

長引く不況の影響で、市税も国税をもとにしていく地方交付税も前年度に比べると減額となっています。

平成11年度には市税は55億2千500万円くらいありましたが、5年間で約4億4千万円も減っており、財政的に非常に厳しい状況となってきました。

地方交付税も、年々減額されてきているほか、国の地方財政制度の見直しによって、従来、地方全体の借金でカバーしていた部分が減らされ、各自治体で赤字地方債を借り入れて対応しな

【表3】平成15年度決算の歳入内訳（前年度比較）

費 目	平成15年度	平成14年度	増 減
市 税	50.9億円	53.2億円	△ 2.3億円
地方交付税	51.9億円	55.5億円	△ 3.6億円
国・道支出金	47.9億円	48.1億円	△ 0.2億円
市 債	51.8億円	23.0億円	28.8億円
そ の 他	42.7億円	42.7億円	0円
合 計	245.2億円	222.5億円	22.7億円

【グラフ3】一般会計歳入全体に占める割合

